

関東大震災 100 年 消防庁の取組

消防庁総務課

関東大震災は、今からちょうど 100 年前の大正 12 年（1923 年）9 月 1 日 11 時 58 分に発生した、マグニチュード 7.9 と推定される大正関東地震によってもたらされた災害です。この地震により、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県及び山梨県で震度 6 を観測したほか、広い範囲で震度 5 から震度 1 を観測しました。震源の相模湾に近い地域を中心に、強震、津波、土砂崩れ、火災、液化化などによる被害が各地に及びました。特に、火災による人的被害は甚大で、約 10 万 5 千人の死者・行方不明者のうち、約 9 万人が火災によるものでした。これは、地震発生時刻が昼食の時間と重なり、食事の準備のために多くの家庭で火を使用していたこと等が原因であると考えられます。

消防庁では、災害を防ぐことはできなくても、備えることはできるという考えのもと、関東大震災の経験を活かし、いつか来る災害に備えられるよう、国民一人ひとりの防災意識の向上に加え、地震火災対策の重要性を周知するための取組を行っています。「関東大震災から 100 年。学ぼう防災。守ろう命。」というキャッチフレーズを掲げ、広報、イベント、セミナー、訓練などの分野で、様々な取組を実施しています。

まずは、広報として、8 月にご紹介したとおり、消防庁ホームページ内に「関東大震災 100 年」特設ページを開設し、関東大震災の概要をはじめ、地震発生時に取るべき行動についての啓発資料、地震火災対策の啓発資料、自主防災組織や消防団等の防災に関する組織に関する情報、火災旋風の実験映像等を掲載しています。また、関東大震災 100 年関係のイベント等を行った際は、X（旧 Twitter）での情報発信を行っているほか、この「消防の動き」も含めて、広報誌などにより周知啓発を行っています。

消防庁単独での広報だけではなく、アニメ「め組の大吾 救国のオレンジ」とタイアップし、関東大震災 100 年を伝えるポスターを作成しました。また、「め組の大吾 救国のオレンジ」の声優 3 名とタイアップし、地震火災対策にも効果的な、住宅用火災警報器の推進をテーマとしたポスターも作成しました。これらのポスターは全国の消防本部等に配布され、人々が関東大震災 100 年に対し、親しみやすい形で意識を向けることに貢献しています。

イベントでは、令和 5 年 8 月 2 日及び 3 日に開催されたこども震が関見学デー（各府省庁等が連携し、所管の業務説明や関連業務の展示等を行うことにより、子供たちに広く社会を知ってもらうこと、政府の施策に対する理解を深めてもらうこと、活動参加を通じて親子の触れ合いを深めてもらうことを目的としたイベント）で、関東大震災 100 年に関するこども向けの啓発資料等を展示しました。



関東大震災から100年。学ぼう防災。守ろう命。



アニメ「め組の大吾 救国のオレンジ」との
タイアップポスター

今後も、9月の「老人の日」及び「敬老の日」の時期に合わせ、高齢者やその家族に対して火災予防を促す防火防災キャンペーンにおいて、地震火災を含む火災予防対策についてリーフレットによる普及・啓発を実施することや、防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）において公益財団法人日本消防協会が主催する関東大震災をテーマとしたシンポジウム「横浜の関東大震災体験、そして今後の災害対応」に協力団体として参加するなど、イベントを活用した周知啓発を行います。

このほかにも、セミナーの機会をとらえた周知啓発や、関東大震災100年を踏まえた訓練に参加するなど、様々な形で取組を行っていく予定です。

これらの取組を通じて、地震対策や地震火災対策など、国民一人ひとりが命を守るためにできることについて、改めて考えるきっかけとなれば幸いです。

関東大震災100年①

関東大震災による被害状況

2023年
関東大震災 100年

関東大震災は、1923年(大正12年)9月1日に発生したマグニチュード7.9と推定される地震（大正関東地震）によってもたらされた災害で、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県及び山梨県で震度6を観測した。

この災害では、火災による人的被害が大きかった一方で、強震、津波、土砂崩れ、液状化などによる被害が各地に及び、複雑な様相を呈した。



関東大震災写真帖（日本聯合通信社編）/国立国会図書館

**1923年（大正12年）9月1日
午前11時58分 発生
マグニチュード7.9**



火災



焼け落ちた橋梁

被害状況

死者・行方不明者	105,385人 (うち火災による死者91,781人)	
住家被害	全潰	109,713棟
	焼失	212,353棟
	流失・埋没	1,301棟

関東大震災100年②

地震発生時の適切な行動

2023年
関東大震災 100年

関東大震災以降も、阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本地震など大きな地震が発生しており、今後も南海トラフ地震、首都直下地震、日本海溝・千島海溝地震の発生が懸念されています。

地震が発生したとき、あわてずに適切な行動をとるためには、みなさんが地震について関心を持ち、日頃から地震の際の正しい心構えを身につけておくことが大切です。

消防庁では、「消防庁防災マニュアル～震災対策啓発資料～」(平成19年8月31日消防庁)を消防庁ホームページで公開し、周知しています。



公開URL

消防庁防災マニュアル（抜粋）

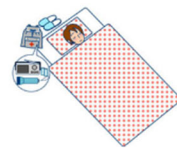
<自宅>

丈夫な机やテーブルなどの下にもぐり、机などの脚をしっかりと握りましょう。
頭を座布団などで保護して、揺れが収まるのを待ちましょう。



<寝ているとき>

揺れて目覚めたら寝具にもぐりこみましょう。
枕元には、厚手の靴下やスリッパ、懐中電灯、携帯ラジオなどを置いておきましょう。



<エレベーター>

全ての階のボタンを押し、最初に停止した階でおりましょう。
ただし、慌てておるのではなく、周囲の状況を見極めましょう。



<地下街>

慌てずに、バッグなどで頭を保護し揺れが収まるのを待ちましょう。
脱出するときは、壁づたいに歩いて避難しましょう。



関東大震災100年③

地震火災を防ぐポイント 「地震火災対策きちんと出来ていますか？」

2023年
関東大震災 100年

- 関東大震災は、特に火災（地震火災）による人的被害が大きい災害でした。
- 地震火災を防ぐためには、感震ブレーカーの設置や家具類の転倒防止対策、安全装置などを備えた火気器具の普及を推進するなどの出火防止対策に加え、住宅用火災警報器、住宅用火災消火器などの設置といった火災の早期発見・初期消火対策が重要です。
- また、地震後、電気が復旧した際に、破損した機器に再通電することで火災の原因となる場合があります。このため、避難時はブレーカーを落とすなど、火災発生を防ぐための行動も必要です。
- 消防庁では、日頃から地震火災に備え、地震時に火災を防ぐためのポイントをまとめた「地震火災を防ぐポイント ～地震火災対策きちんと出来ていますか？～」(令和2年6月30日消防庁)を作成し、周知しています。



公開URL

地震火災を防ぐポイント（抜粋）

事前の対策

家具等の転倒防止対策（固定）を行います。

住宅用火災警報器を設置しましょう。

地震後の対応

停電中は電気器具のスイッチを切るとともに、電源プラグをコンセントから抜きましょう。避難するときはブレーカーを落としましょう。

感震ブレーカーを設置しましょう。

分電盤タイプ
電線タイプ

住宅用火災消火器等を設置し使用方法について確認しましょう。

再通電後は、しばらく電気器具に異常がないか、故障箇所がないか注意を払いましょう（煙、におい）。

3

関東大震災100年④

消防庁の取組

2023年
関東大震災 100年

関東大震災から100年。学ぼう防災。守ろう命。

取組の目的

災害を防ぐことはできなくても、備えることはできるため、関東大震災の経験を活かし、いつか来る災害に備えられるよう、国民一人ひとりの防災意識の向上に加え、地震火災対策の重要性を周知する。

具体的な取組

<p>広報</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防庁HPに 関東大震災特設ページを作成 「め組の大吾 救国のオレンジ」との連携ポスター X (旧Twitter) での情報発信 令和5年版消防白書で 関東大震災の特集を記載 広報誌「消防の動き」 「消防研修」で特集 <p>消防庁ホームページ 関東大震災特設ページ</p>		<p>イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> こども霞が関見学デーで啓発資料等を展示 ぼうさいこくたい2023で日本消防協会主催のシンポジウムに参加 秋の火災予防運動、防火防災キャンペーンで関東大震災を踏まえた啓発を実施 <p>こども霞が関見学デー</p>
<p>訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急消防援助隊地域ブロック合同訓練（大規模災害を想定した訓練を実施） 内閣府防災等が主催する大規模地震を想定した訓練への参加 	<p>セミナー</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国消防技術者会議の特別講演 研修等における啓発 	

関東大震災 100年の啓発資料

問合せ先
消防庁総務課企画係
TEL:03-5253-7506